

授業科目名	現代芸術論 1	担当教員名	
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－総合科目		
履修区分	必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1年次前期	単位数	4単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 秋田公立美術大学の 5 つの専攻のそれぞれのコンセプトや特色を総合的に知ることによって本学が目指す新しい表現の形を論理的に学ぶ。 美術・デザイン・工芸・景観など多様な表現の基礎的な知識を得ることで、今後自分自身が表現を行う上での土台となる考え方を身につける。			
<b>授業概要</b> 5つの専攻に所属する教員がオムニバスで授業を行う。各専攻の基本的なコンセプトや特色を学んでいくが、それだけではなく専攻同士で重なる考え方や専攻を超えた考え方も同時に学んでいく。 シラバスに掲載されている教員だけではなく学内外でそれぞれの分野で活躍する方にも授業を行ってもらい、さらに広い知識の習得を目指す。			
<b>授業計画</b> 第 1 回～第 6 回 ビジュアルアーツ専攻 「現代における表現の社会的意味と価値について」  第 7 回～第 12 回 ものづくりデザイン専攻 「使用感の充足を生み出すデザインについて」  第 13 回～第 18 回 コミュニケーションデザイン専攻 「メディアの進化によるコミュニケーションデザインの変化について」  第 19 回～第 24 回 景観デザイン専攻 「地域文化に裏打ちされたランドスケープについて」  第 25 回～第 30 回 アーツ&ルーツ専攻 「歴史や文化（ルーツ）をベースにした芸術表現（アーツ）について」			
<b>履修上の注意</b> 秋田公立美術大学で学んでいく上での土台となる授業です。1年次に単位を修得するように努力すること。この授業のためのノートを一冊用意すること。			
<b>テキスト</b>			
<b>参考書・参考資料等</b> 参考になる作品集・論文集・映像等を随時紹介していく。			
<b>学修成果の評価方法</b> 授業への取り組み 40% 課題（提出物）の成果 60%			

授業科目名	現代芸術論 2	担当教員名	
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－総合科目		
履修区分	必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1年次後期	単位数	4単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 「現代芸術論 1」で学んだ秋田公立美術大学の 5 つの専攻のコンセプトと本学が目指す新しい表現の形をさらに発展的に学んでいく。 美術・デザイン・工芸・景観など多様な表現の基礎的な知識を得ることで、今後自分自身が表現を行う上での土台となる考え方を身につける。			
<b>授業概要</b> 5 つの専攻に所属する教員がオムニバスで授業を行う。「現代芸術論 1」で学んだ知識や経験を下地としてそれぞれの分野についてさらに深く学んでいく。また、既存の表現のジャンルを超えた新しい表現について考察できるようになるために基礎的な課題などを伴いながら学んでいく。 シラバスに掲載されている教員だけではなく学内外でそれぞれの分野で活躍する方にも授業を行ってもらい、さらに広い知識の習得を目指す。			
<b>授業計画</b> 第 1 回～第 6 回 ビジュアルアーツ専攻 「現代における表現の社会的意味と価値について」  第 7 回～第 12 回 ものづくりデザイン専攻 「使用感の充足を生み出すデザインについて」  第 13 回～第 18 回 コミュニケーションデザイン専攻 「メディアの進化によるコミュニケーションデザインの変化について」  第 19 回～第 24 回 景観デザイン専攻 「地域文化に裏打ちされたランドスケープについて」  第 25 回～第 30 回 アーツ&ルーツ専攻 「歴史や文化（ルーツ）をベースにした芸術表現（アーツ）について」			
<b>履修上の注意</b> 秋田公立美術大学で学んでいく上での土台となる授業です。1年次に単位を修得するように努力すること。この授業のためのノートを一冊用意すること。			
<b>テキスト</b>			
<b>参考書・参考資料等</b> 参考になる作品集・論文集・映像等を随時紹介していく。			
<b>学修成果の評価方法</b> 授業への取り組み 40% 課題（提出物）の成果 60%			

授業科目名	立体造形基礎演習	担当教員名	
授業科目区分	専門科目—専門共通科目—専門基礎科目		
履修区分	選択科目	授業形態	演習
配当年次・学期	2年次後期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 「想い」や「発想」を2次元で表現する為の「スケッチ」の様に、それらを立体的に表現するために必要な感覚や技術があります。素材や対象の持つ特性や魅力を見つける感覚と見つけた価値を立体的に可視化する技術の修得を目指します。			
<b>授業の概要／</b> 複数の素材とテーマやモチーフを用いて、毎週課題を提出し講評する方式で進行します。少しハードですが、着実に造形力が高まります。			
<b>授業計画</b> 1回■ガイダンス                   ・ 描画課題1出題 描画指導 2回■描画課題1講評               ・ 描画課題2出題 描画指導 3回■描画課題2講評               ・ 立体課題1出題 制作方法指導 4回■立体課題1講評               ・ 立体課題2出題 制作方法指導 5回■立体課題2講評               ・ 立体課題3出題 制作方法指導 6回■立体課題3講評               ・ 立体課題4出題 制作方法指導 7回■立体課題4講評               ・ 立体課題5出題 制作方法指導 8回■立体課題5講評               ・ 立体課題6出題 制作方法指導 9回■立体課題6講評               ・ 立体課題7出題 制作方法指導 10回■立体課題7講評               ・ 立体課題8出題 制作方法指導 11回■立体課題8制作 12回■立体課題8講評               ・ 立体課題9出題 制作方法指導 13回■立体課題9講評               ・ 立体課題10出題 制作方法指導 14回■立体課題10制作 15回■立体課題10講評              ・ 総評			
<b>履修上の注意／</b> 作画や制作に必要な用具の購入費用・材料費が別途かかります。授業時間以外も準備や制作が必要です。状況により各回の順序や回数、内容が変わる可能性があります。			
<b>テキスト／</b> 必要に応じて資料を適宜配布します。			
<b>参考書・参考資料等／</b>			
<b>学生に対する評価／</b> ■毎回出される小課題を時間外に制作提出し、時間内に評価を受けることが前提となる。毎回の提出作品および発表の水準。技術習得への工夫などを総合的に評価する。			

授業科目名	デザイン演習入門	担当教員名	
授業科目区分	専門科目—専門共通科目—導入科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	1年次後期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>			
<p>デザインに限らず創造活動の基盤として重要な「完成度を高める」「諦めない」「自の限界を知り、引き上げる」「感動体験を大切にする」意識を獲得し、その意識の基にデザインプロセスを通して「他者への理解」と「自身の視点」そしてその融合の重要性を感得。また、調査分析結果をもとに、共感を生む生活シーンを構想し、わかりやすく表現出来る事。感動体験や提案内容をグループ内で相互に発表し、わかりやすく建設的な意見交換が出来る事も目標とする。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>前半では、表現と思考の幅及びその質を高めると同時に「完成度を追求する」意識を高める為に、「思考」と「手技」を一致させる訓練を反復する。中盤では「自身が何に感動するのか」を徹底的に探求する。前半及び中盤の訓練と探求を活かし、後半では、デザイン提案プロセスに従いながら実際にデザイン提案を行う。共感を生む生活シーンと、シーンを構成するデザインアイテムを構想し、文章とスケッチ等で実在する生活者にデザイン提案を行う。各プロセスをとことんまで拘って実行する事で提案の質が高まる事を学ぶ。</p>			
<b>授業計画</b>			
<p>第1回 : ガイダンス ・課題A「完成度1」手法ガイダンス。  第2回 : 課題A—1 提出講評 ・課題A「完成度2」手法ガイダンス。  第3回 : 課題A—2 提出講評 ・課題A「完成度3」手法ガイダンス。  第4回 : 課題A—3 提出講評 ・課題A「完成度4」手法ガイダンス。  第5回 : 課題A—4 提出講評 ・課題A「完成度5」手法ガイダンス。  第6回 : 課題A—5 提出講評 ・課題A「完成度6」手法ガイダンス。  第7回 : 課題A—6 提出講評 後半 前半課題の総評  第8回 : 課題B「デザイン提案」手法ガイダンス  第9回 : 提案相手の生活実態と特性の確認とまとめ。課題B「Target Profile」の提出。  第10回 : 提案する生活シーンやデザインアイテムのアイデア展開。課題B「Scenario」の提出。  第11回 : スケッチ主体でまとめた提案内容を提案相手に見せて意見を聞く。課題B「Sketch」の提出。  第12回 : 提案相手の意見と既存事例比較から、受容性と独自性を検証する。課題B「Mapping」の提出。  第13回 : 最終的な提案の基本方針とデザインをまとめる。課題B「Concept &amp; Design Image」を提出。  第14回 : デザイン提案を学生が相互に閲覧・評価する。評価を記入した「投票用紙」を提出。  第15回 : 投票結果から、得票上位5人程度が提案内容のプレゼンテーションを行う。総評。</p>			
<b>履修上の注意</b>			
<p>ほぼ毎回、宿題を提示するので作業量は多いです。制作に必要な用具の費用・材料費が別途かかります。授業時間以外も準備や制作が必要です。状況により各回の順序や内容が変わる可能性があります。</p>			
<b>テキスト</b>			
<p>必要に応じて資料を適宜配布します。</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<p>随時提示します。</p>			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>毎回出される小課題を時間外に制作提出し、時間内に評価を受けることが前提となる。毎回の提出作品および発表の水準。技術習得への工夫などを総合的に評価する。</p>			

授業科目名	素材と表現・デザイン	担当教員名	
授業科目区分	教養科目—歴史と文化		
履修区分	選択必修科目	授業形態	講義（オムニバス）
配当年次・学期	2年次後期	単位数	2単位
<p>授業の到達目標及びテーマ  多様な素材による技術や表現を理解し、美術表現への共感や共有を得る礎とする。また、それらによって生み出された物や、その背景と役割について理解を深める。</p>			
<p>授業の概要  生活空間を彩る様々な素材の材料特質と加工方法（ガラス、金属、木、漆、染色、陶芸、プロダクトデザイン素材）と、歴史的背景などについて解説する。また、各素材で作られた生活財やアート作品、ものづくりの事例などを紹介し、素材と表現とデザインの関係性を考察する。</p>			
<p>授業計画  （オムニバス形式）  第1回 ガラスの特質や技法等について  第2回 ガラスの表現について  第3回 ガラス作品やものづくりの事例紹介  第4回 金属の特質や技法、表現について  第5回 金作品やものづくりの事例紹介  第6回 木材の特質や技法、表現について  第7回 木作品やものづくりの事例紹介  第8回 漆の特質や技法、表現について  第9回 漆作品やものづくりの事例紹介  第10回 染色の特質や技法、表現について  第11回 染色作品やものづくりの事例紹介  第12回 陶芸の特質や技法、表現について  第13回 陶芸作品やものづくりの事例紹介  第14回 プロダクトデザイン素材の特質や加工方法について  第15回 プロダクトデザイン製品やものづくりの事例紹介</p>			
履修上の注意			
<p>テキスト  必要に応じて適宜配布</p>			
<p>参考書・参考資料等  必要に応じて適宜配布</p>			
<p>学生に対する評価  授業への取り組み（20%）、レポート（80%）</p>			

授業科目名	プレゼンテーション演習	担当教員名	
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－ものづくりデザイン専攻科		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3年次前期	単位数	1単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> プレゼンテーションとは、世の中に新たな価値を創造し社会に向けて具現化させるための入口となる。最も基本となるのは「自らの声と身体」を使って人に伝える手法であるが、紙媒体や画面媒体にまでプレゼンテーションの領域と表現方法は日々発展している。この授業では、実演や手技から最新のデジタルツールに至る多様化したツールを組み合わせ、それぞれの提案特性に最適化したプレゼンテーションの構築を可能にするスキル修得に取り組む。独自の新しいプレゼンテーション手法の発見を目指し、対象者に向けてよりダイレクトな伝達と共感を与える力を養う。			
<b>授業の概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの基本である身体を使った技術と意識の体得</li> <li>・ハイブリット化するプレゼンテーションの可能性に対応し活用できる能力の体得。</li> <li>・フリーハnadスケッチ、フォトレタッチ、2D・3DCG、アニメーション、ムービー、一通りのプレゼンテーションツールをオムニバス形式で理解する。</li> </ul>			
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス プレゼンテーションの意味と効果・授業の到達点の共有 第2回：Key noteの使い方指導・調査課題1の出題 第3回：調査課題1の発表・調査課題2の出題 第4回：調査課題2の発表・調査課題3の出題 第5回：調査課題3の発表・調査課題4の出題 第6回：調査課題4の発表・調査課題5の出題 第7回：調査課題5の発表・調査資料のまとめ 第8回：スケッチ課題1 手描きスケッチの解説と演習1 第9回：スケッチ課題2 手描きスケッチの解説と演習2 第10回：スケッチ課題3 Illustratorを使ったスケッチの解説と演習1 第11回：スケッチ課題4 Illustratorを使ったスケッチの解説と演習2 第12回：画像課題1・撮影テクニック指導 第13回：画像課題2・Photoshopを使ったフォトレタッチの解説と演習 第14回：画像課題3・アニメ技法の解説と演習（招聘講師） 第15回：画像課題3・ムービー技法の解説と演習（招聘講師）			
<b>履修上の注意</b> 基本的なデザイン用具（グリット入りノート、筆記用具、定規など）の準備。基本ソフト（Illustrator、Photoshop）が使えることが望ましい。8～11回、実技指導補助員の参加による指導となります。 ※ 各回の順番は、授業進行の状況により変わることがあります。			
<b>テキスト</b> 各回、作成したテキストのコピーを配布します。			
<b>参考書・参考資料等</b> 適時、指示します。			
<b>学生に対する評価</b> 毎回出される小課題を時間外に制作提出し、時間内に評価を受けることが前提となる。毎回の提出作品および発表の水準。技術習得への工夫などを総合的に評価する。			

授業科目名	プロダクトデザイン演習	担当教員名	
授業科目区分	専門科目—専門専攻科目—ものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3年次前期	単位数	1単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 現代社会や地域社会から「課題」を抽出し、その「課題」と自身の「想い」や「発想」を重ね合わせ、現実生活に合致した「提案」として具現化する為の基本的な「思考」と「意識」と「技術」を体得する事を目指します。			
<b>授業の概要／</b> 前半は、グループ課題とし、地域社会や文化の観察と分析から「課題」を抽出し、問題を解決、もしくは新しい価値を創造するような提案を行う。後半は個々人で、前半で学んだ課題発見手法を基に、後期ものづくり演習2のテーマに基づいた考察及び調査を行う。			
<b>授業計画</b>  第1回 : ガイダンス (プロダクトデザインとは)・第一課題発表およびガイダンス 第2回 : 調査内容報告・KJ法指導 第3回 : テーマ分析～チームごとにディスカッション 第4回 : グループ毎の考察見解発表・学生間批評会・コンセプト立案法の指導 第5回 : グループ毎のコンセプト発表・学生間批評会・コンセプトの可視化指導 第6回 : アイデアスケッチ発表・学生間批評会・アイデアの具体化指導 第7回 : アイデアスケッチ+簡易模型発表・学生間批評会・デザイン推敲指導 第8回 : デザインの具体化1発表 (形状・サイズ等)・学生間批評会・デザイン具体化指導 第9回 : デザインの具体化2発表 (構造・仕上げなど) 第10回 : 最終プレゼンテーション 発表資料提出 第11回 : 第2課題発表およびガイダンス 第12回 : 自己考察発表・グループワーク (KJ法) 第13回 : 考察調査分析発表 第14回 : 考察調査分析発表 第15回 : コンセプト発表 提出			
<b>履修上の注意／</b> デザインやスケッチ・模型製作に必要な用具の費用・材料費が別途かかります。授業時間以外も準備や制作が必要です。状況により各回の順序や内容が変わる可能性があります。			
<b>テキスト／</b> 必要に応じて資料を適宜配布します。			
<b>参考書・参考資料等／</b> デザインの話・サイレントニーズ・デザインの伝え方・行為のデザイン発想法。			
<b>学生に対する評価／</b> 毎回出される小課題を時間外に制作提出し、時間内に評価を受けることが前提となる。毎回の提出作品および発表の水準。技術習得への工夫などを総合的に評価する。			

授業科目名	ものづくりデザイン演習1 (プロダクトデザインA)	担当教員名	
授業科目区分	専門科目—専門専攻科目—ものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3年次前期	単位数	3単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 現代社会から課題を抽出し、自身の「想い」や「発想」を現実社会の仕組み（量産）に合致した立体的なモノとして具現化する為の基本的な「立体造形把握感覚」と「立体化技術」、そして社会から課題を抽出する為の「思考」と「技術」を体得する事を目指します。			
<b>授業の概要／</b> プロダクトデザインに必要な基礎的な素養を短期課題と長期課題で養います。 短期課題では「立体造形把握感覚」「観察」「計測と可視化」を、長期演習では「考察」「調査」「分析」の思考と技術を修得します。			
<b>授業計画</b> <b>短期課題</b> 第1回 : ガイダンス (プロダクトデザインとは・課題説明) 第2～4回 : 立体模倣A (実物を計測し図面作成) 第5～11回 : 立体模倣A (図面を基に紙で立体的に再現) 第12回 : 立体模倣A (提出講評) 第14回 : 立体模倣B 課題説明 第15～22回 : 立体模倣B (実物を主に手で計測し立体的に再現) 第22回 : 立体模倣B (提出講評) 第23回 : 合同発表  <b>長期課題 (主に自習とし、都度学生間共有と教員指導を行いません)</b> 第1～7回 : 後期演習課題についての考察+調査 第8回 : 考察結果の持ち寄り&ブレスト KJ法を用いた整理 第9～12回 : ブレストの結果を踏まえて「考察を整理」 第13回 : 考察結果発表+意見交換 第14～18回 : 意見交換の結果を踏まえて「考察を整理」 第19～20回 : 最終考察結果提出			
<b>履修上の注意／</b> デザインや計測作図に必要な用具・切削接合に必要な用具の費用・材料費が別途かかります。授業時間以外も準備や制作が必要です。状況により各回の順序や内容が変わる可能性があります。			
<b>テキスト／</b> 必要に応じて資料を適宜配布します。			
<b>参考書・参考資料等／</b> デザインの話・サイレントニーズ・デザインの伝え方・行為のデザイン発想法。			
<b>学生に対する評価／</b> 毎回出される小課題を時間外に制作提出し、時間内に評価を受けることが前提となる。毎回の提出作品および発表の水準。技術習得への工夫などを総合的に評価する。			

授業科目名	ものづくりデザイン演習1 (プロダクトデザインB)	担当教員名	
授業科目区分	専門科目—専門専攻科目—ものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3年次前期	単位数	3単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> イメージや提案を具体的な形状に展開するための基礎的な造形技術と、自らが美しいと感じるフォルムの調査発見と客観的理解の入り口となる課題に取り組む。 思いや考えといった無形感覚を可視化し、触れて実感できる造形物を出現させる一連のプロセスを体験し、基礎的な制作姿勢と技術的基盤を作る。			
<b>授業の概要</b> 主課題と副課題を設ける。主課題前半はプロダクトデザインAと共通課題とし「立体造形把握と再現」による立体感覚、後半はフォルムに対する自己感覚の客観的理解と造形技術の基盤を形成する。			
<b>授業計画</b> 主課題（前半）「立体模倣」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1～7回 → プロダクトデザインAと共通課題とする</li> <li>・ 第1回 → ガイダンス（プロダクトデザインとは・課題説明）</li> <li>・ 第2～4回 → 実物を計測し簡易図面作成</li> <li>・ 第5～6回 → 図面を基に紙で立体化</li> <li>・ 第7回 → 提出講評</li> </ul> 主課題（後半）「1/6スケールの椅子の模型制作」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第8～9回 → 人間工学、椅子の調査と分析</li> <li>・ 第10～11回 → フォルムの検討と決定、簡易的な図面化</li> <li>・ 第12～14回 → ケミカルウッドによる原型作り</li> <li>・ 15～18回 → パテ作業、コンセプトメイキング</li> <li>・ 19～22回 → 塗装仕上げ、撮影、コンセプトシートの作成（A4サイズ）</li> <li>・ 23回 → 合同発表会</li> </ul>			
<b>履修上の注意</b> スケッチや作図等に必要な用具を持参すること。材料費と簡単な工具類が必要。授業時間外に授業準備や製作を行うこと。授業進行の状況により各回の順番は変わることがあります。制作作業では汚れても良い服装で履修すること。			
<b>テキスト</b> 必要に応じて資料を適宜配布します。			
<b>参考書・参考資料等</b> 1000chairs、家具ブランドのカタログ（Cassina、B&B Italia、MOROSOほか）			
<b>学生に対する評価</b> 前半課題 25%、後半課題 75%とする。			

授業科目名	ものづくりデザイン演習2 (プロダクトA)	担当教員名	
授業科目区分	専門科目—専門専攻科目—ものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3年次後期	単位数	4単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 「ものづくりデザイン演習2」は、「ものづくりデザイン演習1」で修得した制作技術を応用展開する科目である。「もてなし」という共通テーマに対し、その幅広い意味を素材分野ごとに物の実制作を通して解釈させる。プロダクトデザイン思想・素材・制作技術の応用により、新たな価値の創造に取り組みせると共に、多角的なものの見方の修得や、プレゼンテーション力を涵養する。			
<b>授業の概要／</b> ものづくりデザイン専攻所属の3学年生全員と全教員が参加する「合同ガイダンス」・「合同発表1(プラン発表)」・「合同発表2(中間発表)」・「合同最終発表」の計4回を各「ものづくりデザイン演習2」が共有する基軸として授業を展開する。プロダクトデザインを専攻した学生は、「生活用品」の領域で、共通テーマを基にしたプロダクトデザインの提案をまとめる。			
<b>授業計画</b> 第1回 : 合同ガイダンス。 第2・3回 : 課題の説明・導入(グループワーク)・調査・分析・問題点の抽出 第4回 : 調査・分析・問題点の抽出 第5回 : 調査結果と解決すべき問題点の確定を発表(メンバー内意見交換) 第6・7回 : デザインの構想(コンセプトワーク) 第8回 : デザインの構想(メンバー内意見交換) 第9回 : デザインスケッチ・プレゼンテーション資料作成 第10回 : 合同発表1(プラン発表) 第11回～15回 : デザインブラッシュアップ・簡易模型作成 第16回～19回 : 三面図作成・プレゼンボード制作 第20回 : 合同発表2(中間発表) 第21回～27回 : 最終模型(データ)作成 第28回～29回 : 作品写真/動画撮影・プレゼン資料作成 第30回 : 合同最終発表 ★上記課題と平行して、第1回～10回の際に、ものづくりデザイン演習1で造った「立体模倣課題B」の鋳型・塗装技術指導を行ないます。			
<b>履修上の注意／</b> デザインや計測作図に必要な用具・模型製作に必要な用具の費用・材料費が別途かかります。授業時間以外も準備や制作が必要です。状況により各回の順序や内容が変わる可能性があります。			
<b>テキスト／</b> 必要に応じて資料を適宜配布します。			
<b>参考書・参考資料等／</b> デザインの話・サイレントニーズ・デザインの伝え方・行為のデザイン発想法。			
<b>学生に対する評価／</b> 提出作品評価 50% 課程評価 50% (調査分析・コンセプト立案・デザイン検証・試作検証などの課程を評価)			

授業科目名	ものづくりデザイン演習2 (プロダクトデザインB)	担当教員名	
授業科目区分	専門科目—専門専攻科目—ものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3年次後期	単位数	4単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>			
<p>「ものづくりデザイン演習1」で修得した制作技術と考え方を基盤として応用的展開に取り組む科目である。「もてなし」という共通テーマに対し、その幅広い意味を素材分野ごとに物の実制作を通して解釈させる。プロダクトデザイン思想・素材・制作技術の応用により、新たな価値の創造に取り組ませると共に、多角的なものの見方の修得や、プレゼンテーション力を養う。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>演習1で得た「立体感覚」「フォルムに対する自己感覚の客観的理解」「造形技術」を基盤としてファニチャーの提案と制作に取り組む。</p> <p>スタートアップとして、グループでの発想と分析を行う。グループで共有した分析をもとに自己課題に展開する。</p>			
<b>授業計画</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1～2回 → ガイダンス、グループでの発想と分析（ブレインストーミングとKJ法）</li> <li>・3～4回 → 調査のまとめ、グループ発表</li> <li>・5～6回 → 個人でのコンセプト構築（目標設定シートの組み立て）</li> <li>・7～9回 → ラフコンセプト、ラフデザインをまとめる</li> <li>・10回 → 合同発表1（プラン発表）</li> <li>・11～12回 → デザイン展開</li> <li>・13～14回 → 具体的なデザインの確定、目標設定シートの更新</li> <li>・15～16回 → 制作開始</li> <li>・17～19回 → 制作</li> <li>・20回 → 合同発表2（中間発表）</li> <li>・21～26回 → 制作</li> <li>・27～29回 → プレゼンテーション資料の作成</li> <li>・30回 → 合同最終発表</li> </ul>			
<b>履修上の注意</b>			
<p>スケッチや作図等に必要な用具を持参すること。材料費と簡単な工具類が必要。授業時間外に授業準備や製作を行うこと。授業進行の状況により各回の順番は変わることがあります。制作作業では汚れても良い服装で履修すること。</p>			
<p>テキスト：必要に応じて資料を適宜配布します。</p>			
<p><b>参考書・参考資料等</b>：家具ブランドのカタログ（Cassina、B&amp;B Italia、MOROSOほか） 究極の住デザイン（テレンス・コンラン）ほか</p>			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>グループ評価15%、コンセプト評価25%、制作評価60%（提案に対する制作物）とする。</p>			

授業科目名	ものづくりデザイン演習3	担当教員名	
授業科目区分	専門科目—専門専攻科目—ものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	4年次後期	単位数	6単位
<p><b>授業の到達目標及びテーマ</b> 風習・生活習慣などの風土に根差し形成されてきた地域文化や、3年時の地域産業研究によって得られた工芸の知見から抽出した特質をものづくりの根拠とします。そして現代のプロダクトデザイン思想を応用することで、情感を引き出す機能や形態を考慮した、使用感の充足が得られるものづくりを試みます。</p>			
<p><b>授業の概要</b>／世界標準的文化とは異なる地域文化の特性に着目し再解釈することで現代社会が求める新たな価値を創造します。各自が学んできた素材に対する知識と経験、デザイン思想を起点に手作りの生活実用品を制作します。 課題「美しい生活」をテーマに使用感の充足が得られる作品を制作する。</p>			
<p><b>授業計画</b></p> <p>第1回            ガイダンス（科目の位置づけ、到達目標など）</p> <p>第2回～5回      コンセプトの検討・資料づくり</p> <p>第6回            コンセプト発表</p> <p>第7回            制作計画書作成</p> <p>第8回～11回    模型制作</p> <p>第12回          中間発表</p> <p>第13回～43回   制作工房でそれぞれ実制作に取り組む</p> <p>第44回～45回   最終発表</p>			
<p><b>履修上の注意</b>／</p> <p>※ 授業時間以外も各自が時間を見つけ制作する事</p>			
<p><b>テキスト</b>／</p>			
<p><b>参考書・参考資料等</b>／</p> <p>必要に応じて資料を適宜配布します。</p>			
<p><b>学生に対する評価</b>／</p> <p>課題提出作品 100%</p>			

授業科目名	卒業研究 (ものづくりデザイン専攻)	担当教員名	
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－卒業研究科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	4年次後期	単位数	10単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 卒業研究は、いわゆる4年間の集大成として位置づける。したがって、個別作品の完成度を問うことはもちろんのこと、計画性、協調性、実行力、提案力などを集中的に鍛え上げる場とし、社会的実践力の礎を築くことを目標とする。そのために学生が制作活動を総合的に把握でき、コミュニケーション能力をたかめる仕組みとする。ものづくりデザイン専攻としてのコンセプトでもある「使用感の充足」というテーマから導き出した具体的提案のある作品を目指す。			
<b>授業の概要</b> 卒業研究の期間に発表会を3回行なう（「卒業研究プラン発表会」・「卒業研究中間発表会」・「卒業研究審査発表会」）。プラン発表までは、専攻所属の教員全員で指導にあたり、計画の骨格がまとまった段階で、各自制作に入る（グループ制作を認める。ただし、担当部分の明確化を要す）。			
<b>授業計画</b> 第1回 卒業制作についてのスケジュール説明 第2回～第15回 コンセプトワーク 第16回 卒業研究プラン発表会（10月初旬） 第17回～第40回 制作 第41回卒業研究中間発表会（11月中旬） 第42回～第74回 制作 第75回 卒業研究審査発表会（1月初旬～中旬）			
<b>履修上の注意</b> 「卒業研究プラン発表会」10%、「卒業研究中間発表会」10%、「卒業研究審査発表会」80%で評価し、3回の発表会は原則として全員参加とする。材料費が別途必要である。			
<b>テキスト</b> 必要に応じて資料を適宜配布する。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>学生に対する評価</b> 「卒業研究プラン発表会」10%、「卒業研究中間発表会」10%、「卒業研究審査発表会」80%。100点満点で60点以上を単位認定要件とする。			